



開放的な空間が広がるリビングの吹き抜けは、お気に入りの場所。

柵は青森県産のスギを使用。天井にはアカマツの梁を現しとしている。

黒をベースにした外観。玄関部分にスギを使い、メリハリをつけた。



HOUSING CASE

01

自分で伐った木が
ずっと生き続ける家

青森市 小山内邸
企業組合 県木住

疲れが癒やされ
優しい気持ちに

家の中に一步入ると、ふんわりと漂うさわやかな木の香り。床や柱、天井などに、主に青森で育ったスギを使った住宅です。「早く帰りたいと思える家ですね」と、施主の小山内さんは笑顔を見せます。一日の疲れが癒やされ、優しい気持ちになれるそうです。

この家のポイントは、リビングの吹き抜けと薪ストーブ。家を建てるにあたり、この2つは小山内さんだけの譲れない希望でした。その願いをかなえた開放的なリビングは、一番のお気に入りの空間です。

また、程良く柔らかいスギの床は、素足で歩くととても気持ちがいいそうです。冬でも冷たく感じることはありません。また、木が適度に湿気をコントロールするため、夏はカラッとしていて快適。「木の家に住み始めたら、寝付きが良くなった気がします」(小山内さん)。

義父の山の木も使用
より一層愛着が湧く

「せっかくならば、家づくりに青森で育った木を使いたい」と考えたのは、地元で育った木が、地元の気候風土になじむと考えたからです。「あおもりの木」というとヒバのイメージが強かったようですが、調べていくうちに、スギや南部

アカマツも住宅材として使えることを知り、さまざまな樹種をバランス良く使った木の家を建てることに決めました。

家を支える100本の柱は、奥様のお父様が十和田市に所有している山で育ったスギで作りました。その中の一部は、小山内さん自身がチェーンソーを使って伐採。ダイニングテーブルに使ったアカマツも、この山で伐った木です。思い入れがある分、より一層愛着が湧きます。土台とキッチンカウンターにはヒバを使いました。

木に包まれ、まるで自然の中にいるかのような暖かい雰囲気の家。冬は薪ストーブを焚き、体の芯から暖まりながら、家族で幸せな時間を過ごしています。



ここが
好きです!

ダイニングテーブルは、奥様のお父様が所有する山のアカマツで地元の家具職人が製作した。

ここで
建てました!



企業組合 県木住

〒038-1303 青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL 0172-55-7793 FAX 0172-55-7559
https://www.kenmokujiyu.com/

優しい気持ちになれる癒やしの木の家です



DATA

| | |
|---------|------------------|
| 家族構成 | 夫婦+子ども1人 |
| 使った青森の木 | スギ、青森ヒバ、南部アカマツ |
| 敷地面積 | 188.22㎡ (56.93坪) |
| 延床面積 | 115.11㎡ (34.75坪) |
| 工法・構造 | 木造在来 |
| 竣工年月 | 2020年3月 |
| 工務店 | 企業組合 県木住 |